



もうすぐ平成の時代が終わりますね。近頃巷では、“平成最後の…” 何て言うフレーズをよく目にしますが、私もその流行りにのって、“平成最後の”と銘打ってこのコラムを書かせて頂きます。

先日、夕飯のナムルに胡麻をかけて仕上げていた所、次女が駆け寄ってきました。

次女：「あ〜これ、ちーちゃん（友達）のパパがかけてくれたやつだ〜！やった〜！」と飛び跳ねて大興奮。

母：「ちーちゃんのパパがかけてくれた？なんだろう??？」と頭の中で答え合わせ…結果、その前の日に友達のお家でちーちゃんのお父さんが、魚のお世話をしている様子を見せてくれ、その時魚にあげていたエサと胡麻が重なったようです。

“前日に目をキラキラさせていた魚のエサが今日自分の所に来るなんて…” という喜びを全力で表す次女。

夕飯が始まり、小さな粒の胡麻を一生懸命お箸で掴みながら、電気に照らし、下から覗き、多方面からじーっと見つめる長女。

長女：「ねえ、ママ。これを植えたら何が出てくるんだろうね？緑の葉っぱかなあ？もしかしてスイカだったりして〜」とこれまた目をキラキラさせて大興奮の様子。

夕飯の一品の、しかも小さな小さな胡麻1粒にこんなにも我が家の姉妹が目をキラキラさせてもらえるなんて…何だか私まで一緒に嬉しくなってしまう、早速、迎えた翌朝、花壇の中に胡麻を植えることになりました。探求心が相まって、自分から早起きをし、スタスタ着替え、顔を洗って歯磨きまでして、胡麻を植える準備完了の知らせ。いつも胡麻の助けがあれば…と思うほどのスピードでした。

子どもの探求心や意欲、発想の面白さにはいつも元気をもらっています。きっと普段も見逃したり、聞き逃したりしている事がたくさんあるのだろうなと思うと小さな発見や面白い発想など一つ一つに向き合っただけの時間と心の余裕があったらなあという思いでいっぱいになります。

家族4人分の胡麻を握って外に出て、「風に飛ばされて1粒になっちゃった」と泣きながら部屋に戻ってきたのはここだけの話です。胡麻のおかわりを渡し、無事に4粒を自分の考える配置で植えられた時のとびきりの笑顔の思い浮かべ、またしばらく頑張れそうです。

毎日の育児お疲れ様です！

